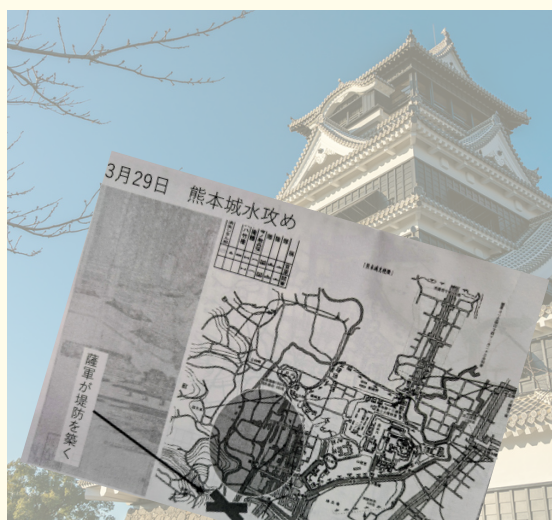


西南の役・熊本城攻防

講師：熊本市文化財課 西村 沙保里氏

熊本さわやか大学校大学院 2025/07/11



今回は熊本鎮台兵の島本利三郎が書き上げた「戦争略記」の記録を中心に、「熊本城攻防戦」を解説。52日間に及ぶ攻防の緊迫した様子に、皆、固唾を飲んで聞き入った。

5 班の岡野さんに授業の感想をお聞きしました

西南戦争と言えば田原坂と思いがちだが、お話を聞いて、この熊本城の攻防戦が官軍と薩摩軍の命運を分けた戦いだったのだと思いました。私の住まいは京町にあり、毎日、熊本城を見えています。こちら側の城壁は急峻で、熊本城を攻めるなら西側からでしょうね。段山の戦いが熾烈を極めたことは納得できます。また、花岡山から熊本城を望むと、意外なほど近くに感じます。ドラマでは、桐野利秋が花岡山から熊本城に向けて大砲を撃ったものの、砲弾は届きませんでした。これは明らかに準備不足であり、薩摩軍の作戦の甘さが伺えます。背景には薩摩軍内部にあった慢心や、熊本城を軽視するようなおごりが見て取れるのではないのでしょうか。

もしも薩摩軍が熊本城をスルーして行って、小倉まで到達していたらどうなっていたでしょう。不満を持つ士族が2万3万となって、九州が一つの独立国となり新政府と対峙したら……これは、私の想像です（笑）歴史には、こんな空想が出来る楽しみがありますね。

今日の話聞いて、熊本に残る戦跡をまた歩いてみたいと思いました。これからまた、新しい資料が見つかったりするかもしれません。それも楽しみにしています。

次の授業は、「熊本城の復興とその魅力」ですよね。どのようなお話が聞けるのか、わくわくしています。